

事業活動実績報告書

施設名	あすなろ幼稚園
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	自分が食べるもののルーツを知ろう
2 実施期間	令和 6年 4月 1日 ～ 令和 7年3月31日

3 取組概要	(取組日) 令和6年5月7日 ～ 令和6年7月12日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	・園の畑にクラス毎に何を育てるか相談して決めた野菜の苗を自分たちで買いに行き、植え、育て、収穫し、どんなメニューで食べるかクラスで相談して食材を自分たちで揃え、食べる	
	(取組日) 令和6年12月9日 ～ 令和6年12月9日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	・移動果樹園で食育外部講師を招き、ミカンのもぎ方やみかん農家の思いなどを知り、実際にミカンを収穫して持ち帰る	
	(取組日) 令和6年6月10日 ～ 令和7年3月5日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
	・園自慢の本格ピザ窯で、園児がピザ生地を練って好きな形に成形し、トッピングも自分で選び飾り、焼いて食べる	
	(取組日) 令和年月日 ～ 令和年月日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	
		写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの

効果検証報告書

施設名	あすなろ幼稚園		
教育理念	「さがそうよ、キラキラのじぶん」主体性・共生性・体力を育む		

事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現		
1 事業名	自分が食べるもののルーツを知ろう		
2 事業概要	令和 6年 4月 1日 ~ 令和7年3月31日		

計画時

3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・畑の整備(名誉理事長・非常勤職員)、苗の育成指導を園近隣の農家をお願いしている(ボランティア) ・収穫した野菜の調理(副園長・非常勤職員) ・みかん農家の方を食育講師に招く ・ピザ職人の元、ピザ焼き研修を受けた職員が子ども達が作ったピザを焼く		
--------	--	--	--

事業後

3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・コロナ禍は過ぎたとはいえ感染症対策に留意して行った。そのための人的配置が必要になった。 ・名誉理事長の老化により、畑の整備を一人では賄えず、人的配置が必要になった。 ・昨年度コロナ禍ぶりのピザ会からさらに復活させ、年間各学年2回ずつのピザ会を開催、そのことにより学年ごとに年間の中でピザ作り体験に差をつける等、工夫が必要になり、人的配置も必要になった。		
-------------	---	--	--

計画時

4 事業のねらい	自分の口に入るものがどこから来て、どう育って、どう調理されて届くのか、また作っている方はどんな気持ちや、どんな事情を抱えているのか 実体験として体感することで食や農業に興味を持ってほしい。 命の巡りを体感してほしい。		
----------	--	--	--

事業後

4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・コロナ禍を経ての食育事業完全復活だったが、その後の給食時等に見られる園児の食への興味の広がりや、摂食チャレンジの広がりには莫大なものだった。食育体験の必要を強く感じた		
-------------	--	--	--

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・5月第一週（GW明け）までに各クラスで苗の種類を子どもたちが相談して決め年長クラスが園を代表して近隣の園芸店まで全クラス分を買い付けに行く。昨年度の反省を生かし、今年度は雨風に強い品種の各苗を努めて選ぶ。 苗が届き次第、園敷地内の畑にクラス毎に植えに行く。植えるときは畑担当の名誉理事長からそれぞれの野菜の由来や命を頂く意義の話を聞く。その後も園生活のなかで週3回程度の頻度で水やりに行く。必要に応じて添え木、肥料等もする。 収穫日が決まったらクラス毎にメニューを相談しておき、必要な食材を揃え収穫したら（今年度は6月第2週から開始）その日のうちに調理して食べる。 ・年中の3月に畑にジャガイモの苗を植える。年長6月に収穫し、一部を給食として全学年に提供し、一部は年長が家庭に持ち帰り、家で楽しむ。 ・芋掘り遠足に年齢的に行かない（長時間観光バスに乗れない）満3歳クラスのために職員が植えたサツマイモを他学年の芋掘り遠足の日に収穫して持ち帰る。 ・12月9日に移動果樹園みかん狩りを開催。みかん農家の方にミカンのもぎ方やみかん農家の思いなどを知り、実際にミカンを収穫して持ち帰る。 ・年長は5月も3月も自分で生地から練ってトッピングして焼くピザ会を実施する。（他学年は担任が子どもの前で生地を練る。トッピングで学年差をつける）
---------	---

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・クラスごとに育てる苗を相談して決め、育て、収穫し、クラスで収穫野菜を何のメニューで食べるか相談して決め、そのために必要な他の食材を考え、調理を副園長にお願いし、食べるという活動をする中で、「ピーマンの肉詰めならピーマン食べてみる」「キュウリはかっぱ巻きで食べたい」などの子どもならではの意見を保育で実現していく喜びを子どもだけでなく保育者含め、園全体で満喫できた。また雨風に強い品種の苗を努めて選んだことにより、一本も枯れることなく収穫できた。 ・移動果樹園では園外保育にいけない満3歳クラスも体験でき、園全体の大きな学びとなった。 ・ピザ会では年間2回体験したことにより、年長は初回はトッピングを園で用意し、2回目に家から持参、年中はクラスで相談して買いに行く等、学年ごとの楽しみ方を段階をつけて提案できたことが、次年度に繋がる活動になった
-----	-------------	---

計画時	6 環境構成	・畑の整備、近隣の農家の方との打ち合わせ、苗を買い付けに伺う園芸店（奥戸園）との打ち合わせ、苗の育成に合わせて必要な園芸品を揃えて設置する。 ・移動果樹園みかん狩りを迎える前に、子どもたちが製作物での果物狩遊びを楽しむ。 ・本物のピザ生地を練る前に「夢のピザ」の描画活動等を通してイメージしておく
	事業後	6についての効果・検証 各学年ごとの活動として環境構成するだけでなく、年長が他学年の苗の買い付けに行くなど、他学年と連携を取ることで活動が膨らむことを実感し、それを見越した環境構成が必要だと分かった

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・ピーマンやナス、トマトを嫌い、全く食べない子が多いクラスで敢えてそれらの野菜を育てたら、自分たちで育てた野菜を食べる機会になるなど、食の広がりを期待する ・ミカン狩りでミカンに興味を持ったり、農家の方の想いを想像してミカンを食べようになる ・玉ねぎやピーマン、しめじ等の自分が苦手な野菜をピザを作ることで興味を持ってほしい。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 ・ピーマン・ナス・トマトを嫌い、全く食べない子が多いクラスで敢えてピーマンを育てたところ収穫時にメニューの話し合いで「○○なら食べてみる」という声が挙がり、その希望を叶えて調理したところ、食べられたとのこと。 ・ミカン狩りでミカンに興味を持ったり、農家の方の想いを想像してミカンを食べようになったとのこと。 ・玉ねぎやピーマン、しめじ等の自分が苦手な野菜をピザを作るために自分から選び、作り、食べる子が多い。「自分で好きにトッピングを選べる」という無理強いされない雰囲気逆にな主体的に苦手野菜にチャレンジする一歩となった
8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 昨年度の経験を経てコロナ禍ぶりの完全復活での食育活動を経て、コロナ禍で失われていた体験・育ちの大きさを実感した。自分の口に入るものの経緯と行方を体感しておく、という経験は何物にも勝る学びだと感じた。 今後も園児と共に考え、相談し、トライ＆エラーを繰り返しながら、あすならならではのユニークで豊かな食育に取り組んでいきたい